

## <血管腫専門外来>

### 乳児血管腫の治療

- 乳児血管腫は乳児の4~5%に見られ、乳児期に最も発生頻度の高い良性の腫瘍です。

- 病変が小さく無害であり、自然消退するため、これまでは治療を要さないことが多かったです。しかし、ほとんどの症例では生後1~3ヶ月で急速な増大をみせ、約1~1.5年まで増殖期が続きます。

- 乳児血管腫は1) 表在型 2) 深在型 3) 混合型に大別されます。乳児血管腫の病変の大きさや解剖学的部位によっては問題となる症例が存在します。例えば顔面に発症した乳児血管腫は瘢痕化や整容面で問題となる可能性があります。具体的に1) 眼窩に生じると、視力への影響や醜形のリスクがあり、2) 鼻や耳に生じると醜形や永続的なリスクがあり、3) 口唇や口腔内に生じると摂食(授乳)困難をきたしたり、4) 頭皮の2cm以上の血管腫は永続的な脱毛症をきたすことがあります。また5つ以上の皮膚の血管腫は肝臓に生じる血管腫に関連する可能性があります (米小児科学会 (AAP) 乳児血管腫診療ガイドラインから引用)。

- 我が国では乳児血管腫の治療はほぼ色素レーザーによる治療のみでしたが、近年プロプラノロールの内服が承認され、レーザー治療やプロプラノロール内服またはその併用治療が行われるようになりました。

- 当院では小児科との診療連携を行っており、乳児血管腫において病変の大きさや解剖学的部位によって問題となる症例に対しては小児科で約1週間入院の上、プロプラノロール内服治療を行い、その後皮膚科外来で定期的な診療と血管腫によっては可変式ロングパルスダイレーザー (ALPDL) の照射を併用しています。頭皮に生じた2cm以上の血管腫へは積極的にALPDLの照射を行い、永久的な脱毛症を防いでいます。

[https://www.maruho.co.jp/clinicsearch/kekkanshu/chiba\\_tokyojoshiik\\_adaigakufuzokuyachiyoiroyou\\_L.html](https://www.maruho.co.jp/clinicsearch/kekkanshu/chiba_tokyojoshiik_adaigakufuzokuyachiyoiroyou_L.html)

### 毛細血管奇形の治療

- 毛細血管奇形は以前は単純性血管腫と名付けられていました。当院では早い時期から積極的に可変式ロングパルスダイレーザー（ALPDL）の照射を行っています。

～患者さん向けのパンフレット～

